

# 年頭のご挨拶

病院長 小熊 豊



病院長 小熊 豊

明けましておめでとございます。皆様どのように新年をお迎えでしょうか。

昨年は未曾有の大震災で、実に多くの方がお亡くなりになり、悲惨な目に会われていらつしやいます。心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。また大変な経済不況、混乱する社会情勢に苦しんでいらつしやる方が続出していきます。今年こそは平和で穏やかに暮らせるような年になつて欲しいと願つておりますが、前途多難な状況としか言いようがありません。

当院にとりましては、昨年は本館に続いて南館が完成し、全人的

医療に必要な様々な医療施設設備の更新が完了致しました。住民の皆様、関係各位の方々のご支援に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。更に十二月には地域救命救急センターに指定され、当地域の急性期拠点病院として二層の充実を図ることができました。本年は旧病院の解体



新本館 平成22年10月開院



南館 平成23年10月開院

と立体駐車場の建設が予定されており、完成のあかつきには皆様の利便性が飛躍的に高まるものと考えております。

このような状況のなか私共職員一同は、「地域に愛され貢献できる病院」を目指して、なお二層努力する所存でございます。多くの困難を二つ二つ乗り越えて、地域の皆様の健康に寄与できるよう頑張るつもりでございます。私

は医療の原点は「納得」にあると思っております。患者さんご家族の納得、医療者の納得、行政・住民の方々の納得です。そのためには専門的技術は勿論のこと、お互いを思いやる心、向上を願つての不断の努力が必要と考えています。皆様と一緒に納得できる医療の実践を目指して努力したいと考えています。どうぞ宜しくお願い致します。

今年一年が皆様にとりまして良い年となりますよう祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。



救急救命センター

## 特集1

# 救急救命センター開設

救急救命センター長

下嶋 秀和



救急救命センター長 下嶋 秀和

このたび砂川市立病院が地域救命救急センターとして指定を受け、十二月二日から稼働を開始しました。新病院本館が昨年十月に開院し南館が本年十月完成、砂川市立病院はいま大きく発展しています。

当センターは救急外来専用診察室5室、処置室を3室備え、全自動の救急車専用出入り口やドクターヘリ用のヘリポートも設置しています。二十四時間体制で画像検査や血液検査など各種検査の施行が可能な体制をとっています。また集中治療室六床と救命救急センター専用病床が十八床(現在は十二床)あります。

救命救急センターという重症の三次救急の専門かと思いいなるかもしれません。すこし、敷居が高い印象をお持ちになるかもしれません。実際何度か聞かれたことありますが、まったくの誤解です。これまでも砂川市立病院は中空知およびその近隣地域の中核をなす病院として一次から三次までのあらゆる救急患者を受け入れ治療に当たってきました。救命救急センターにな



救急外来の様子



救急救命センター内

つてもそういったことは一切変わりません。これまでどおり二十四時間三六五日すべての患者さんを受け入れ治療に当たってまいります。都市部や札幌でも起こっている救急車の受け入れ問題、いわゆる「たらいまわし」は、ここにはありません。

今後この体制を維持しつつ、救命救急センターとして人員の強化や育成、設備の充実を図り、地域の住民の方々の健康を守る

べく与えられた責務を全うしていきたいと思っております。

私個人の話を少しさせていただと、私はこれまで救急専門医として主に心肺停止や多発外傷などいわゆる三次の重症疾患の治療や集中治療に主に携わってきました。当院に赴任してもうすぐ二年が経過しますが、地域の特徴や、われわれ救急医に求められるものがようやく分かっています。気がしています。そもそも小学生的ころ私が医師を目指し、卒業救命医を選択した原点に近いものかもしれません。救急医って何?とまだまだに親にも聞かれます。そしていまだに何だか分からないままです(笑)。場所や施設ごとにその役割が変わっているのを感じます。砂川市立病院での自分に求められている役割はGeneralist(総合医)だと思っています。救急医として三次の重症疾患の診療は必須ですが、今後はそういった救急医・総合医の育成にも取り組んでいきたいと考えています。